

# 府の石油コンビナート防災対策を市長は無視？

〈出典:大阪府石油コンビナート等防災計画〉

	対策項目	第1期	第2期	第3期
ハード対策	浮き屋根式タンクの耐震化	達成	継続なし	
	準特定タンクの耐震化	達成	継続なし	
	球形高圧ガスタンクの鋼管ブレースの耐震化	達成	継続なし	
	タンク配管への緊急遮断弁の設置（許可容量：500kL以上）	引続き 取り組む	引続き 取り組む	継続
	重要施設等の浸水対策		引続き 取り組む	継続
	建物の地震・津波対策		一定の 成果あり	事例の 共有・活用
ソフト対策	管理油高（下限値）の見直し（許可容量：500kL以上）	達成	継続なし	
	小規模タンクの漂流対策（許可容量：100～500kL）			新規
	有害な化学物質の漏えいに備えた初動体制の整備			新規
	津波避難計画の見直し（第3期：協力会社や一時的な作業員増の考慮）	引続き 取り組む	引続き 取り組む	継続
	安全に係る企業活動の再点検		一定の 成果あり	事例の 共有・活用
	BCPの策定・見直し（防災関連項目）		一定の 成果あり	事例の 共有・活用
	L2（想定最大規模）の高潮（地震・津波を除く）に備えたソフト対策			新規
	近隣事業所間の情報共有の強化（第3期：事故時の広報・連絡手段の整備）		引続き 取り組む	継続
プラント保安におけるIoT・AIの利活用			新規	

昨年の12月議会で、臨海工業地帯の小規模タンクが津波に流される危惧を指摘した際、阪口市長は「…ドンブラッコとタンクがぞろぞろ、ということは考えられない」と私の危惧を否定。しかし、上の表のとおり大阪府では小規模タンクの漂流は想定されています。市長は府の想定を無視するのでしょうか。さらに今回の議会では私に対して「あなたは今にも津波が押し寄せるといふわけだ。私はそういうことではないと申し上げた」と答弁。阪口市長は想定外どころか想定内のことまで否定しているのです。

## 市長がこのような認識で、高石市の危機管理は大丈夫なのでしょうか？

大阪府が想定している小規模タンクの漂流に対して、高石市民に正しい防災情報が提供されるよう府に働きかけることこそが市長に求められているのではないでしょうか。



以上で**3月議会報告**を終了します。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

**連絡先** 〒592-0003 高石市東羽衣 1-16-19 木戸あきら事務所 072-261-7801 (TEL/FAX)

議会関係は、フェイスブックが一番使っています。ご覧ください！ **公式サイト**   <http://kidoakira.com/>



高石市議会議員

# 木戸あきら の議員報告 市民主役宣言！

経歴

東羽衣小学校～中央大学法学部卒、商社勤務後現職、他に社会福祉法人理事長、大阪ベイエリア NATECH 会員

議員歴 高石市議会議員(4期目)

会派 “市民の声” 所属  
(木戸あきら・山敷めぐみ)

高石市議会 令和4年3月 議会報告他

## 芝生に5億円、コロナ対策に8千円ではあかん！ 令和4年度一般会計予算に反対

本年度高石市一般会計予算は開発・イベント系偏重予算です。高石駅前芝生化工事に5億円、スケボーパーク整備工事に1億5千万円、まちづくり系や健幸系コンサルタント会社へ1億円など…。

一方、コロナ感染対策に用意される一般財源(市税)は8,000円でした。8,000万円ではありません、ただの8,000円です。  
(ちなみにワクチン接種事業は市税投入無し、国が100%費用を負担します。)

芝生化整備事業5億円ですが、財源として国から約2億5千万円の補助金がでます。しかし、残りほとんどは高石市が借金をして財源に充てます。現在、高石市は大阪府の自治体の中で借金率が2番目に高い自治体になっています。将来負担比率は、次のページの表のように大阪府内でワーストワンになっていて、この予算で発生する借金は将来の市民が市税から返済していくことになります。

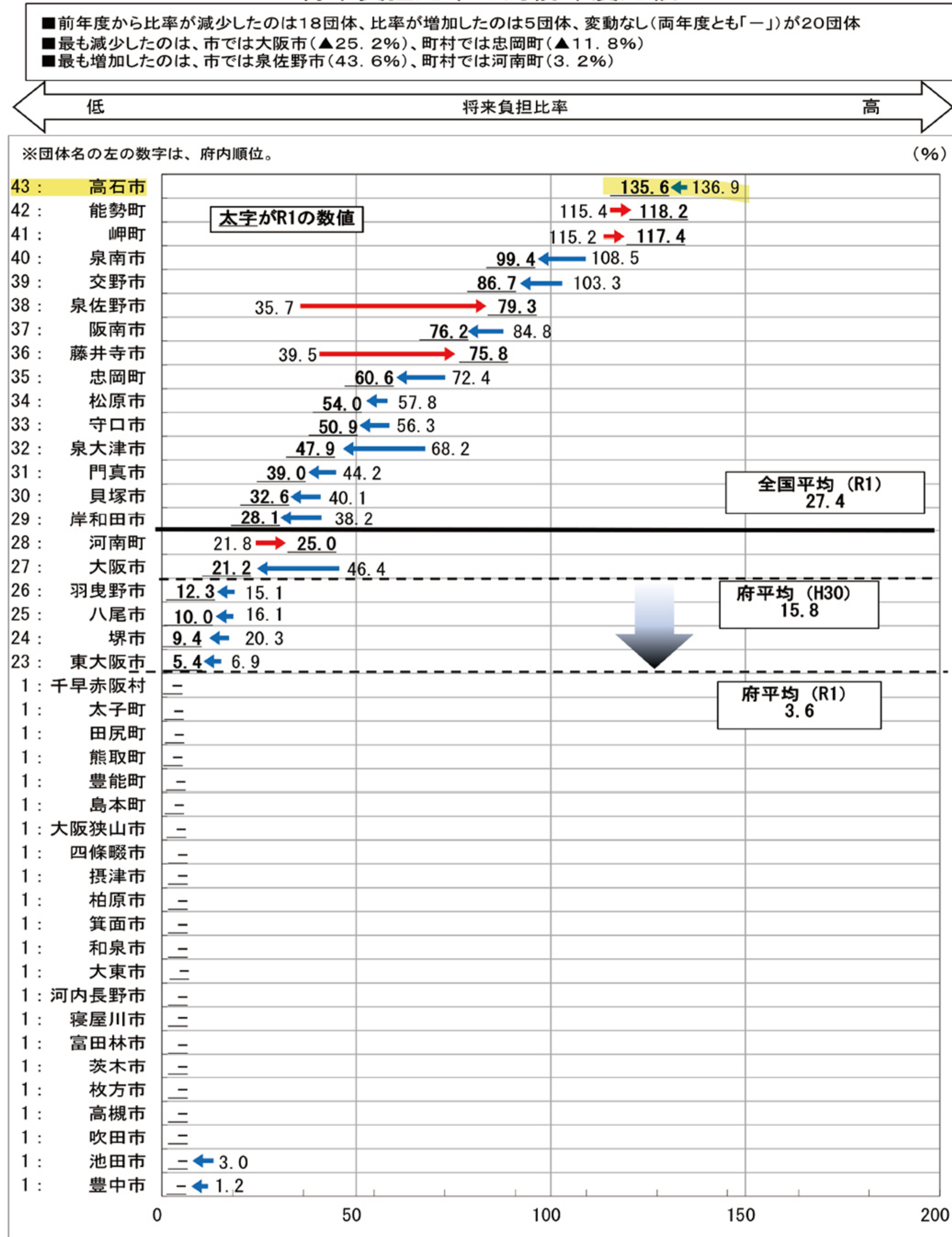
こんな財政状況で、高石駅前の美化のための芝生化工事に多額の借金をし、市民が要望するコロナ対策に市税8,000円しか予算化しないというのはあまりにもバランスを欠きますので、私たち会派“市民の声”の山敷議員と私は本年度予算に反対しました。

中面ページもご覧ください



高石駅前広場構想(5億円)実験

### 将来負担比率の対前年度比較



(令和元年度大阪府43市町村将来負担比率ランキング)

### 山敷議員の反対討論概略

私たちは何度も、感染者および濃厚接触者となり外出できない市民への支援物資の支給を求めてきた。

高石市では1週間(2/27～3/5)で300人を超える陽性者が確認された。しかし本予算で支援物資の予算が計上されなかったことは本当に残念。また「リノベーションまちづくり」として新年度予算も含めコンサル業者に約1億4千万円もの税金が投入され、「健康のまちづくり」として健康コンサル業者への支払いには6千万～7千万円の税金が数年にわたって計上されている。高石市は他市では実施が当たり前の「事務事業評価」をしない。費用対効果を客観的に評価し予算に反映する当たり前の行政運営を強く求め、市民が今、本当に必要としている予算となっていないことから反対を表明する。

## 議員定数削減より、 予算チェックで無駄削減を！

財政協力をしたいという理由で1名の議員定数削減議案が可決されました。その結果、現在の16名の議員定数は、今後は定員15名となります。この1名削減による財政効果は約1,000万円と思料します。

財政協力が理由なら、なぜ予算に反対しないのか？先ほど報告しました予算に10名の議員が賛成しています。“行政の無駄を指摘し、無駄を削減する”のは議員の務め。予算を精査して、議員に与えられた修正権を使うか、あるいは私たちのように反対し、今回の大きな工事を削減すれば1,000万円の以上の財政効果は生み出せるのに。

また、議員定数削減を“身を切る改革”とも言われていますが、16番目の候補者が1人身を切られるだけで、ほとんどの現職議員は身を切ることにはなりませんし、実際、現職議員が身を切ることになる“報酬削減”は実行されていません。

私たち党派“市民の声”(山敷・木戸)は、そんな市民に向けたパフォーマンスよりも、議員の“資質改革”が必要だと思っております。“行政の無駄を指摘し、無駄を削減する”・・・本来の仕事ができる議員が高石市議会には必要です。共感して下さる市民の皆様にはぜひチャレンジしていただきたい。従い、新人候補のためには定員枠は減らさない方がよいと考え、本定数削減議案に反対いたしました。

## 第7波に備えて無料PCR検査を！

### 高石市立保健医療センターでPCR実施を要望

阪口市長は「高石市立診療センターの敷地内に高齢者や乳幼児の施設がある。そのような場所で積極的にPCR検査を行うことは想定していない」と発言。しかし実際は診療センターで有症状者へのPCR検査は昨年度から実施されています。市長の発言の意図が全く理解できませんでした。



私は、市立の診療センターでは無料PCR検査を是非とも実施すべき、と以前より要望してきました。検査が出来る体制はあるのですから、すぐにでも実施できるはずです。

泉佐野市、泉大津市では行政主導の無料検査が既に実施されています。また、府の無料検査は高石市のドラッグストア3店舗で実施されていますが、一日あたり数人分に過ぎません。高石市が主導して市立の施設での実施を強く求めます。

また、以前から子どもの感染拡大予防のために抗原検査キットを学校に備えることを要望してきましたが、未だに答えはありません。

高石市の第7波への備えは不十分過ぎます。BA.2はオミクロンの1.5倍の感染力だと言われています、重症化する可能性の高い高齢者を守るためにも若者を含む市民への無料検査実施は緊急の課題です。